

コロナ禍における災害支援会議

災害で試されている “生きる力”

くりこま高原自然学校
RQ市民災害救援センター
佐々木豊志
塚原俊也



自分の人生の経験値・スキル

- Cゾーン
- 冒険教育
- 生きる力

**私は今、日本各地で発生している
自然災害で
国民すべての“生きる力”
を試されていると感じています**

「生きる力」……………

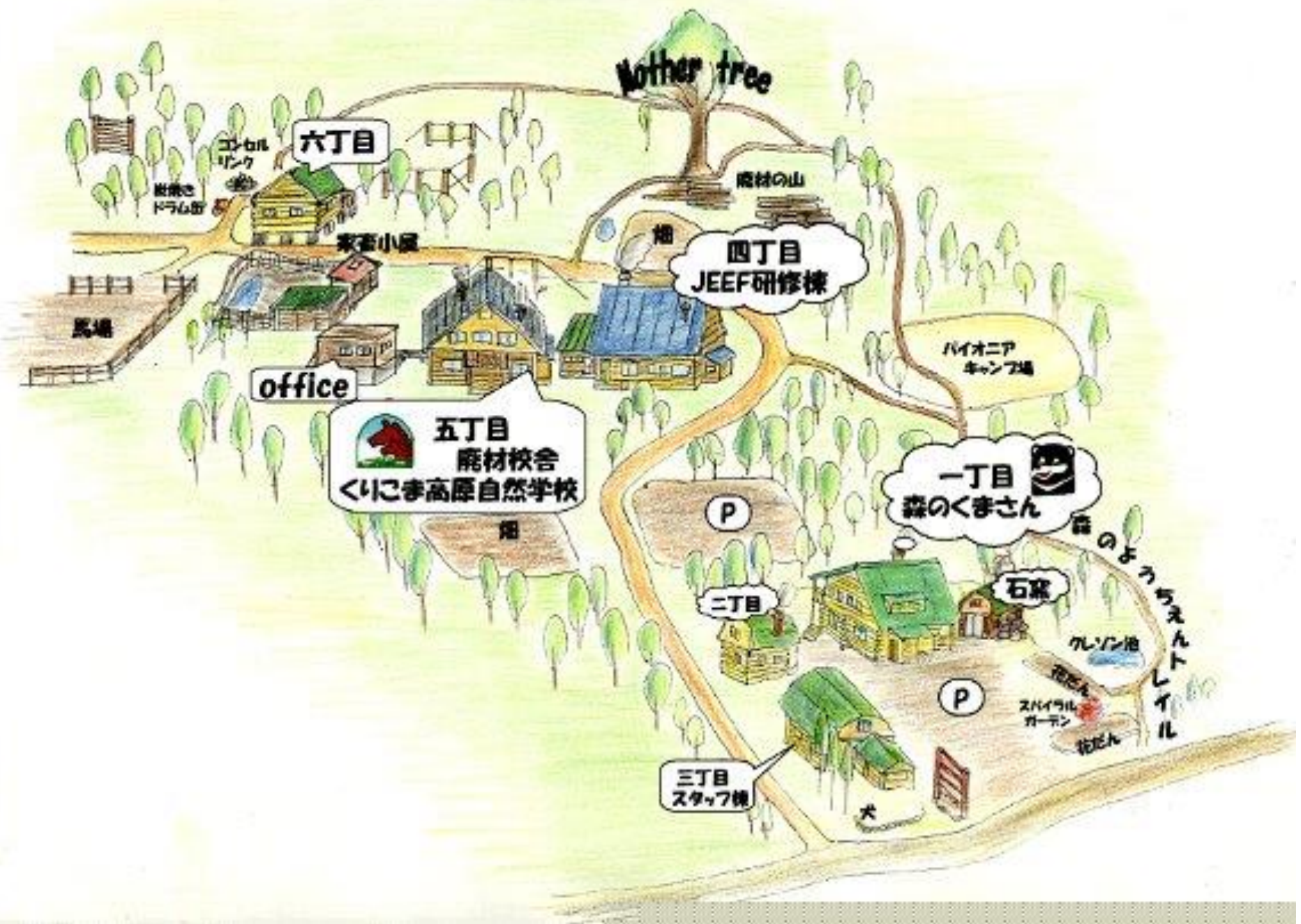
1996年に文部省（現在の文部科学省）

中央教育審議会（中教審）が

「21世紀の教育を展望した我が国の教育の在り方について」という諮問に対する第1次答申の中で示された。

その後の学習指導要領の考え方等で解説されている。





Mother tree

六丁目

コンセル
リンク

家畜
小屋

家畜小屋

鹿材の山

畑

四丁目
JEEF研修棟

バイオニア
キャンプ場

office



五丁目
鹿材校舎
くにま高原自然学校

畑

P

二丁目

畑

一丁目
森のくまさん

石窯

窯のようちえん
トレイル

マウンテン池

花だん

スパイラル
カーテン

花だん

P

三丁目
スタッフ棟

犬



次代を担う子どもを育む野外教育事業



積雪期の体験活動



イグルー泊

スノーワンダーランド&雪上キャンプ



雪の栗駒山アタック

生きる力とは

いかに**社会が変化**しようと、
自分で課題を見つけ、
自ら学び、自ら考え、
主体的に判断し、行動し、
よりよく**問題を解決する**資質や能力であり、
また、**自らを律し**つつ、他人とともに**協調し、**
他人を**思いやる心**や**感動する心**など、
豊かな人間性である、
たくましく生きるための
健康や**体力**

1996年文部省(現在の文部科学省)
中央教育審議会

くいにま高原暮らし環境実験村 エコビレッジ構想

持続可能な環境に配慮した豊かな暮らしを創る

(農的な暮らし) 畑: 野菜を作る。

田んぼ: 米を作る。家畜を飼う。

山菜・キノコ・木の実を採る。

(創造的な暮らし) 廃材で建物を造る。

石窯を作る。パンを焼く。

薪をつくる。

(潤いある暮らし) 花壇を作る。

ハーブ・花を育てる。

未来へ提案できるライフスタイル

夢や希望があるワクワクする生活創り。

自発的な「思い」を「形」にする生活づくり。



岩手・宮城内陸地震

2008年6月14日
午前8時43分

3000年に一度の山崩れ

この時の被災体験で
自然学校の存在を試された

被災時の状態、状況、どう動いたか？
課題に対する気づき

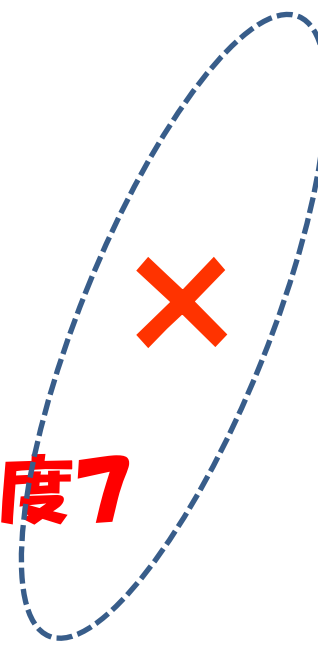
2008年6月14日8時43分

岩手・宮城内陸地震 M7.2 最大震度6強



2011年3月11日14時46分

東日本大震災 M9.0 最大震度7



二迫川:荒砥沢ダム上部大崩落







くいこま高原自然学校の 震災直後の惨状

くいこま高原自然学校の施設 基礎が甚大な損傷



曳き屋で移動し
基礎を造り直す。
エコハウスとして再建
を目指している。



**“孤立、ではなく
“自立した、避難生活が始まる。**



**情報の共有
今後の確認を全員でする。**



**発電機でテレビを
見る
あらためて状況を知
る**



**6月16日
4名を残し
16名が山を降いた。**



**この時の被災体験で
自然学校の存在を試された**

**自然学校の “教育”
“野外教育” “冒険教育”
を試された**

いかに**社会が変化**しようと、
自分で課題を見つけ、
自ら学び、自ら考え、
主体的に判断し、行動し、
よりよく**問題を解決する**資質や能力であり、
また、**自らを律し**つつ、他人とともに**協調し、**
他人を**思いやる心**や**感動する心**など、
豊かな人間性である、
たくましく生きるための
健康や**体力**

1996年文部省(現在の文部科学省)
中央教育審議会

「体験から学ぶ」

ということ

冒険体験が意味すること

環境問題など持続可能な社会の実現
社会の課題解決に取り組む力

体験学習法の循環過程

実社会に応用する

体験する(Experiencing)
Do・やってみる

ふいかえい・討論して分かち合う作業

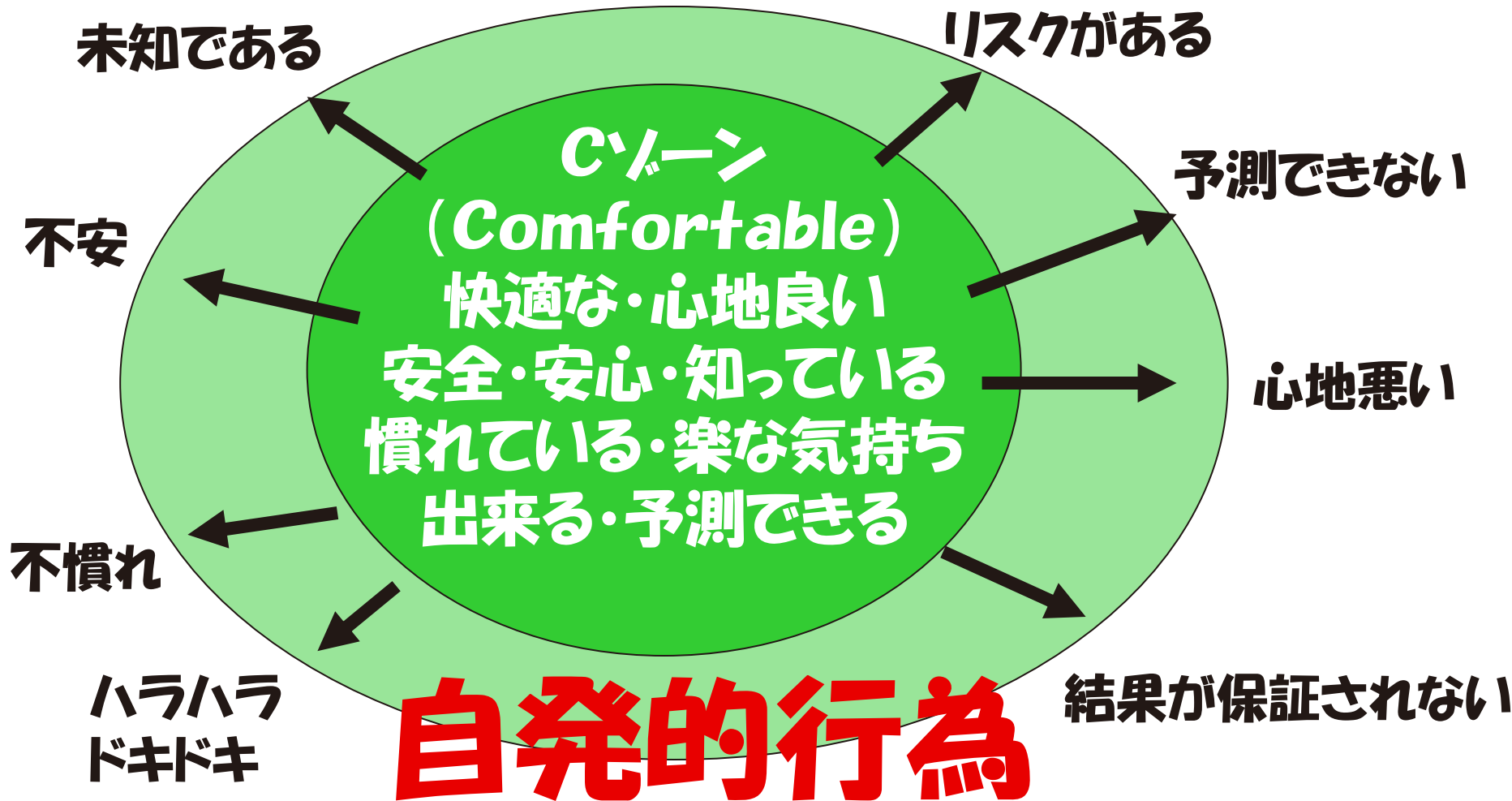
今度はどうすればいいの？
概念化する(Hypothesizing)

何が起こったの？
指摘する(Identifying)

なぜ起こったの？
分析する(Analyzing)

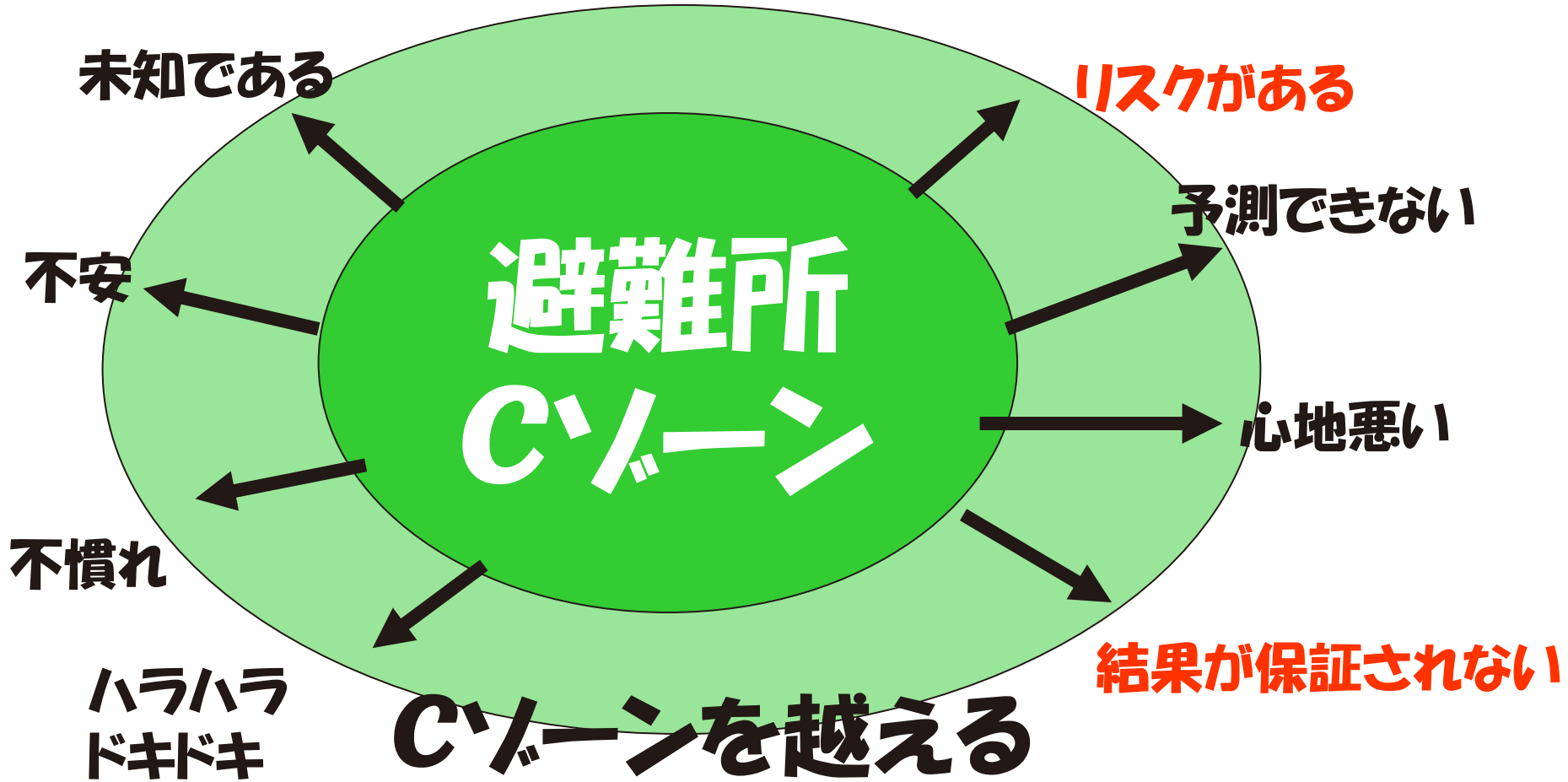
自然学校は、この体験学習法を使って
自然体験・生活体験の中で教育活動をする。

冒険とは、Cゾーンを越えること



Cゾーンを越えて、広げることが成長といえる

被災体験は、冒険体験そのものの



自発的に復興へ向かう行為
変化を生む・現状を打破する

インプットとアウトプット

インプット・・・

情報を得ること。材料を得ること。

状況を知ること。・・・

アウトプット

伝えること・使うこと・表現すること

行動すること・・・対処すること

体験活動はアウトプット、関わりを学ぶことに有効であると言われていています。

■限界は自分自身がつくっている

■思い込みが大切なことを
進めさせない

災害支援で組織としてどう動いたか？ （支援活動のフェーズについて）

- 発生直後（2～3日）※つなげる、つながる
- 支援拠点が出来るまで（～1週間）
- 仮設住宅が出来るまで

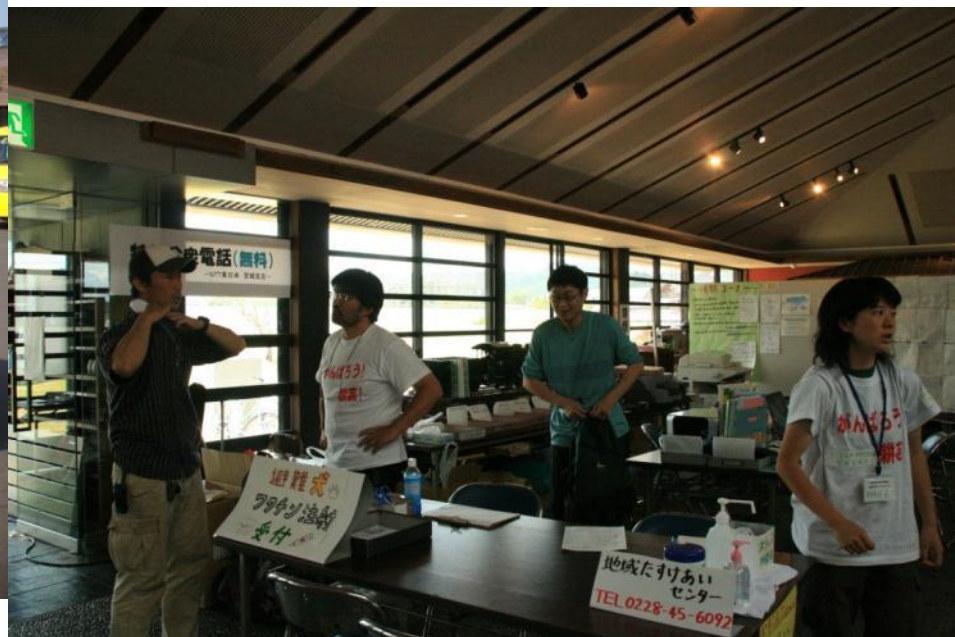
3日後 避難指示
6月17日避難民で情報共有
全住民が山を降いた。
伝創館で避難生活が始まる。



行動その1

避難所でボランティアセンターを立ち上げる

- ◆避難所: 6月14日～7月22日
- ◆ボランティアセンターの設立6月20日～7月22日
- ◆耕英復興プロジェクト: 6月20日～
- ◆くりこま耕英震災復興の会: 7月18日設立総会



行動その2

耕英復興プロジェクト

イワナ・イチゴ救出作戦



**Cイーンを越えて
結果が保証されなくても
取り組むこと**



**400kgのイチゴ
を下ろした**

イチゴジャムになった。



震災直後、窮状を伝えた
全国の仲間や企業から支援を受けて、
夏休みの事業を実施できた。



震災に負けない冒険キャンプ・北上川リバーキャンプ(2008年夏)

東日本大震災

2011年3月11日

午後2時46分

1000年に一度の大津波

この瞬までのつながりと
16年間の経験から動いた。

そしてまた

今日に至るまでつながっている

被災地の概況とRQの活動



RQ東北現地本部長

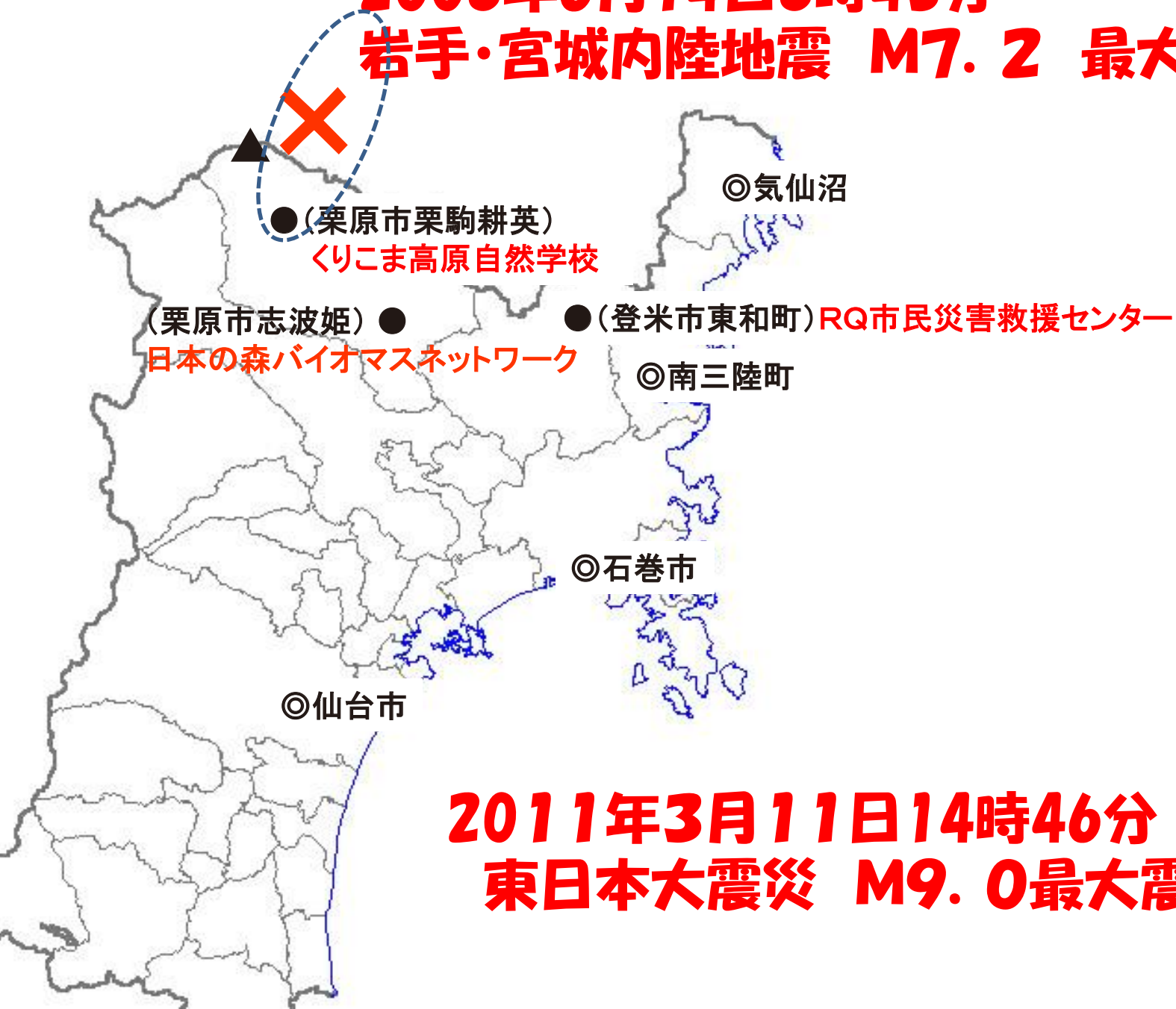
佐々木豊志(くりこま高原自然学校代表)

RQ河北ボランティアセンター

塚原俊也(くりこま高原自然学校)

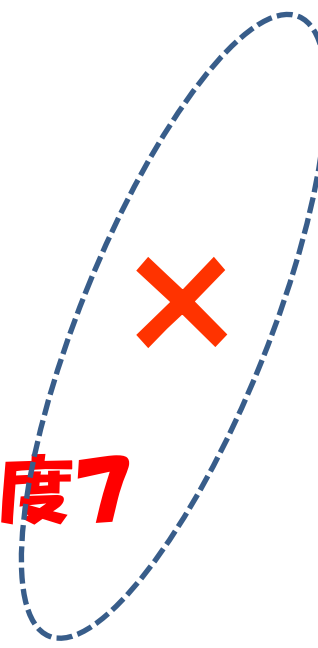
2008年6月14日8時43分

岩手・宮城内陸地震 M7.2 最大震度6強



2011年3月11日14時46分

東日本大震災 M9.0 最大震度7



南三陸町役場の防災センター ここから避難を呼びかける放送が





被災時の状態、状況、どう動いたか？

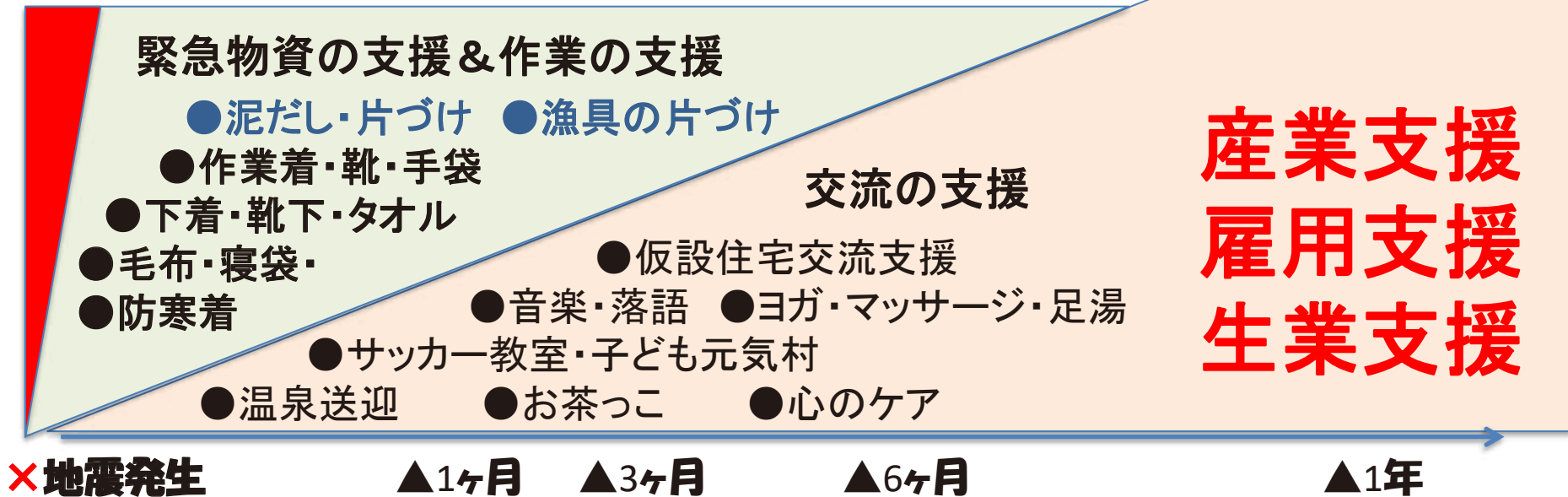
課題に対する気づき

- 発生直後(1~2日)
- 2.災害支援で組織としてどう動いたか？(支援活動のフェーズについて)
- 発生直後(2~3日)※つなげる、つながる
- 支援拠点が出来るまで(~1週間)
- 仮設住宅が出来るまで

- 3月11日 3年ぶりのネイチャースキーガイド
- またもや活動休止そして今度は沿岸部の支援の準備へ
- 3月14日亘理の荒浜→名取→仙台モンベル店3月15日モンベル山形の倉庫
(物資を配りながら知人の安否確認)
- 3月20日登米市鱒淵小学校RQ登米本部開設(佐々木は本部長)
- →塚原は4月1日から石巻河北VC開設

RQ市民災害救援センターの 災害支援活動の変化

人命救急
捜索活動





3月17日 救援会議開催(日本エコツーリズムセンター西日暮里)

RQ市民災害救援センター

3月18日に登米市に借用申し入れ
19日借用、20日から支援活動本格化
(登米市東和町:旧鱒淵小学校体育館)



▲栗駒山

●くりこま高原自然学校

●RQ唐桑(気仙沼市唐桑)

◎気仙沼市

RQ東北現地本部
(登米市東和町)

●RQ小泉(気仙沼市本吉)

◎栗原市

(栗原市志波姫) ●
日本の森バイオマスネットワーク

◎登米市

●RQ歌津(南三陸町歌津)

◎南三陸町

●RQ河北(石巻市河北町)

◎石巻市

◎仙台市





ボランティア活動は毎日が 体験からの学びの連続だった

ボランティア活動をする
やってみる

ふりかえり・討論して分かち合う作業

新しい方法を考える
改善する

何か課題だったのか
事実を挙げる

何が問題なのか
分析する

ボランティアセンターではこの体験学習法を使って
毎日のボランティアセンターの運営をした

物資の配送車両の手配表(デリバリー)

物資を細かく分類して仕分け管理(フロア係)

準備状況

車/担当者	出発日時	準備状況	対応者	目的地
2020 1月25日	4/2	①	谷口	
2020/1/25				
2020/1/25	3/1	②	谷口	風呂
2020/1/25	3/1	③	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	④	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑤	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑥	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑦	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑧	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑨	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑩	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑪	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑫	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑬	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑭	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑮	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑯	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑰	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑱	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑲	谷口	風呂
2020/1/25	3/2	⑳	谷口	風呂



荷物を積んで出発

多いときは25台・・・約70往復

これまでに合計約400tの物資を届けた

全国・世界各国からボランティア延べ37,000名を超える



RQ子ども元気村

被災から1ヶ月余りが経過。まだ新学期が始まらない。

子どもたちの多くは避難所で我慢をした生活が続き存分に遊ぶことがなかった。

RQの中心メンバーである自然学校や森のようちえん関係者を中心に子どもの遊びを提供した。屋台形式で様々な遊びを楽しんだ。



温泉送迎と託児サービス

春園園（老人介護施設）のスタッフの託児からスタート。



体験から何を学ぶのか？ `生きる力` は暗黙知

【暗黙知】

体験学習

暗黙知は

体験から学ぶ

【形式知】

概念学習

教科書は

形式知で構成される

(野中郁次郎 「知的創造企業」・セキモデルから)

体験学習法と概念学習法

◆体験学習法◆

(体験教育)

自然学校はこれが中心

プロセスから学び

心、感性、体で

“考える”ことを求める

暗黙知を中心に学ぶ

言葉や図では表現できない知識

経験や訓練で培われたスキル

物事の見方・考え方・雰囲気

◆概念学習法◆

(教科教育)

学校ではこれが中心

概念化された知識

をより多く

“覚える”ことを求める

形式知を中心に学ぶ

言葉や図に表現できる知識

社会的な知識・客観的な知識

理論的に習得できる知識

体験が育むものは・・・

「バカの壁」 養老孟司（ようろうたけし）

脳内の一次方程式

$$y = ax$$

X = インプット

y = アウトプット

a = 係数

感情の係数 ・ ・ ・ 現実の重み

状況を現実の場面として受け止める力。
あるいは実際に経験して培われる力。

$y = aX$ の佐々木豊志的解釈

$y =$ 自分の生き方・知恵がある行動

反応・アウトプットの仕方・具体的な行動・言動・生き方・技能

$x =$ 概念学習で得られる。知識

インプットされる材料。知識・情報・データなど。

日本では、たくさん知識を得た人が評価される。

**$a =$ 感情、心の係数・感じる心と力 = 感性
知識を知恵に変える力**

好奇心・意欲・関心の源・行動の欲求の源・心の有様

ひとり一人違う取り組むときのエネルギーの源

体験活動・体験学習で育むともの……

東北地方整備局と東電幹部

光った **“櫛の歯作戦”**

局長が持つ暗黙知

状況を読む力

決断する力

多くのプロセスから学び

暗黙知を中心に学ぶ

経験や訓練で培われたスキル

物事の見方・考え方・雰囲気

マニュアル

対応

社会的な知識

客観的な知識

理論的に

習得した知識